



小さな車体とスッキリした色味で目を引く。価格は約1万2千計(約160万円)

コンセントで充電可能 話題の2人乗りミニカー

2018年初夏から、スイスとドイツの一般道に、新しい小型電気自動車「マイクロリーノ」がお目見えする。幅1.5メートル、長さ2.5メートルのミニカーは環境にも配慮され、前評判が高い。注目すべき点は、なんと普通のコンセントでチャージ可能なこと。1月末時点で、すでに4600件の予約が入っている。

(チューリヒ=岩澤 里美)

小さな車体とスッキリした色味で目を引くマイクロリーノは、乗用車1台分の縦列駐車スペースに3台も止められるほどコンパクト。車が多い都市部には最適だ。最高時速は90キロメートル、最大走行距離は120キロメートル、大きいバッテリーにすれば215キロメートルまで走れる。

家庭用コンセント(電圧220ボルト)なら4時間で、ヨーロッパ内の電気自動車用充電スポットなら1時間で充電が完了する。

フェイスブックやメールによる一般投票を行い、カラーは青、ミント、赤、オレンジ、グレー、黒、白の7色を用意した。チャイルドシートも取り付け可能。もちろん安全性にも配慮し、時速50キロメートルの衝突試験をパスしている。

本来、運転免許なしで運転ができる車種だが、マイクロリーノが増え過ぎると環境負荷が高まることに配慮し、ヨーロッパの基準に合わせて、



ヴァイム・ウボターCEO(中央)と社で働く息子2人

免許の保持を必要とした。

開発したのは、スイスのマイクロ・モビリティ・システムズ社だ。同社は80カ国以上で販売しているマイクロスクーター(ハンドル付きの乗り物)の製造販売で知られている。マイクロスクーターを発明したヴァイム・ウボターCEOが、息子2人とテレビを見ていたときにひらめいた。

それは、いまはない伊自動車メーカーのイソ社についての番組だった。1962年まで生産されたミニカーのイソ・イセッタのような電気自動車があれば、理想の都市型の乗り物になると思った。

そして古いイセッタを改造して研究を始めた。プロトタイプに改良を重ね、2年半でほぼ完成させた。

ライセンス与え現地生産へ

マイクロリーノは、とにかく小さい。そしてバッテリー抜き重量が450キログラムと軽い。そのため、通常の車に比べて40%も材料が少なくて済む。市場に出ている電気自動車と比べても、製造過程のエネルギーは60%も削減でき、運転中も65%もエネルギー負担が減るといふ。

ヨーロッパ以外での販売も見込む。ただし、製造希望者にライセンスを与えて、現地で生産するシステムだ。こうすれば、輸送時の二酸化炭素排出量を抑えることができる。

マイクロリーノは2016年、オートモティブ・ブランド・コンテストの「将来のモビリティコンセプト」部門で1位に輝いた。未来の車として、世界に広まっていくか。